

## 紅緑偏「滑稽俳句集」を読み解く 16

2010.09.20 (聞き手 高橋素子)

高橋 > ☆ **暴れ梅雨愚陀佛庵を飲み込みり** 竜矢

これはこの七月十二日に起きた思いも寄らぬ土砂災害を目の当たりにして、師が教えていらしゃる愛媛大学の「俳句学」の学生・安永竜矢さんが詠まれた句ですね。

愚陀佛庵に大きな傷跡を残して、「異常気象」と騒がれたこの夏も、朝夕の虫の音に見送られて、やっと渋々立ち去って行ってくれる様ですよ。

---

会長 > 異常気象だなんだと一喜一憂する人間を見て大自然はなんと言うだろうか。  
猛暑日の続いたことなんか知らぬげに虫が鳴いてます。虫から見れば 人間は滑稽な存在でしょう。

---

高橋 > それでは今日の学習始めさせて戴きます。  
紅緑編「滑稽俳句集」はまだ「夏の部」です。  
「植物」の「百合花」の句からですね。

☆ **三日見て光琳たぐの百合をかく** 大江丸

---

会長 > 百合は美人の代名詞ですね。  
美人も三日見ればただの人・・・という俗言が下敷きになっていますね。光琳は三日見て描いたとすればありえることです。  
ただの百合だったので

---

高橋 > えっ！この句、美人の俗言が下敷きに？  
次の季語は「夏菊」です。

☆ 夏菊は陶淵明がいやなりけり 言水

・・「帰りなんいざ 田園將に・・・」  
(帰去来辞)と詠み、三十代で役人を止め晴耕雨読の田園生活を始めた陶淵明は「飲酒の詩」のなかに

☆ 采菊東籬下 (菊を采る・東籬下)

☆ 秋菊有佳色 (秋菊佳色あり)

などと菊を詠んでますが・・井上井月  
(幕末の長岡藩士)も「漂泊酒句」の中に

☆ 夏菊や陶淵明が朝機嫌 井月

などと言う句を詠んでいます。これらも一緒にご説明下さいね。

---

会長 > 陶淵明は菊をこよなく愛した詩人ですね。  
中でも秋の菊を褒めていますね。

☆ 夏菊は陶淵明がいやなりけり 言水

秋の菊を褒めちぎるから夏菊は嫌いなんだという決め付けですね。朝機嫌も昼以降は不機嫌ということですね。

---

高橋 > 次の季語は「瓜」ですよ。  
わあ一沢山あります。  
昔から「瓜の蔓に茄子は成らぬ」等と言われ、芭蕉も  
☆秋涼し手毎にむけや瓜茄子 等と詠んでいる様ですが、瓜と茄子の句、また瓜盗人や狐に関する句が多いですね。

☆ 水桶にうなづき合ふや瓜茄子 蕪村

☆ 人くゝる縄もありけり瓜作り 太祇

☆ 人来たら蛙になれよ冷瓜 一茶

☆ 瓜番を化かしに来る狐かな 子規

☆ 瓜茄子二派に分かれて選挙哉 格堂

☆ 麦藁を枕に瓜の晝寝哉 格堂

☆ 瓜盗む心もありて夜振かな 紅緑

御説明下さいね。

---

会長 > ☆ 秋涼し手毎にむげや瓜茄子 芭蕉

瓜は剥きますが 茄子も・・・これは昔の  
茄子は皮が硬かったから剥いた。今は焼  
き茄子ぐらいなもので、これ焼いてから  
剥きますね。

☆ 水桶にうなづき合ふや瓜茄子 蕪村

これはなかなか 面白い 写生句ですが  
擬人化です。

☆ 人くゝる縄もありけり瓜作り 太祇

瓜泥棒を捕まえるための縄ですね。  
瓜畑に常備してある・・・  
ふふふ 可笑的ですね。

☆ 人来たら蛙になれよ冷瓜 一茶

盗られないように化けなさいと・・・

☆ 瓜番を化かしに来る狐かな 子規

瓜泥棒を見張る瓜番がいた。その瓜番を  
化かす狐は実は人間なんですね。瓜泥棒  
を追いはらった。顔見知りだから狐だっ  
たということにする。そんなところで  
しよう。

☆ 瓜茄子二派に分かれて選挙哉 格堂

これは五十歩百歩 の候補を選挙する。  
川柳に近いですね。

☆ 麦藁を枕に瓜の晝寝哉 格堂

瓜畑の風景ですね。瓜が畑の土に触れて

傷むことがありますから 藁を敷いて収穫を待つわけです。

☆ 瓜盗む心もありて夜振かな 紅緑

カンテラを振り寄ってくる 魚を捕らえる  
これが夜振りですがついでに 瓜を盗む  
たくらみの心ですね。

---

高橋 > 会長は瓜泥棒になかなかお詳しいですね。（笑）

---

会長 > 昔とった杵柄ということでしょう（笑）

---

高橋 > ところで、会長も  
★葱坊主親の背を見て育つ とお詠みですが、次の季語は「葱坊主」です。

☆ 葱坊主芥子の坊主と他宗哉 虚子

広辞苑では、「葱坊主」は春四月、「芥子の花（坊主）」は夏五月となっていますが、ここでは「葱の坊主」を夏の季語としていますね。

---

会長 > ☆ 葱坊主芥子の坊主と他宗哉 虚子

同じ坊主ながら 葱宗と芥子宗がありまして・・・言葉遊びですね。

---

高橋 > ではここからいよいよ「夏の部」の「動物」に参ります。  
最初の季語は「子子」ぼうふうですね。  
其れにしても面白い字を書きますね。  
インターネットに「孤立した」とか「ちっぼけな」の意 等と書かれていますよ。それでは句に参りますね。

☆ 子子の蚊になる頃は文學士 子規

☆ 子子は蚊になる紙魚は何になる 四方太

☆ 子子の様な字を書く速記哉 塵外

---

会長 > ☆ 子子の蚊になる頃は文學士 子規

見込みということですか。子規自身は中退しましたから、自身のことでしたら中退する前の期待感溢れる作品ですね。

☆ 子子は蚊になる紙魚は何になる 四方太

紙魚も昆虫ですが 子子と異なり、変態しない 無変態なんです。だから何になる・めと問うているのです。

☆ 子子の様な字を書く速記哉 塵外

速記の文字はたしかに・・・しかしこれは速記の句ということになりますが この自由がよろしいですね。

---

高橋 > 会長の子子の句、ちょっと鑑賞させて戴きますね。  
あっ！句集「鯉の耳」にありました！

★ ぼうぶらや愚痴を言ひつつあがり来る

・・・子子 ひとりひとり(?)が浮沈しながら懸命に生きている。 小さな生命力を慈しみ、彼らの気持になられて詠まれた擬人化の句ですね。・・・でも、やがて蚊になり刺されることを思うと、私にはとても会長のお慈悲のお心に共感することは・・・(笑)

---

会長 > 私の句にはほかに・・・

★ 虫も体操子子のスクワット

があります。

---

高橋 > すみません。気が付かなくて・・・  
成る程、スクワットですか？  
次の季語は「水馬」ですよ。

☆ 水馬回り合せて鯉の口 紅緑

みずすましにも運の悪いのがいるのですね。

---

会長 > 水馬は敏捷ですが、鯉もあれで敏捷な動きをします。  
ジャンプして虫を捕捉したりしますね。

---

高橋 > 水馬だけに、水馬も運も「回り合せ」が面白いです  
ね。

次の季語は、会長も

★一匹の蚊にストーカーされてゐる

・・・とお詠みになっただけじゃありませんが・・・

「蚊・蚊柱」です。

身近な生き物だけに沢山の句が詠まれている様です  
よ。

☆ 蚊は名乗り蚤はぬす人のゆかり 其角  
成る程、面白いですね。

☆ 蚊柱に行あたりけり鼻の先 菟好

☆ 足二本蚊にわたしたる旅寝哉 孤鶴

☆ 尻へたの蚊を打つ芋の葉風哉 巢兆

☆ 晝の蚊を後ろにかくす佛かな 一茶

☆ 晝の蚊やだまりこくつて後ろから 一茶

☆ 釣鐘の中よりわんと出る蚊哉 一茶

☆ ものいへば隣の蚊遣隣の蚊 大江丸

☆ 吉田屋の蚊に喰れたり伊左衛門 大江丸

近松門左衛門の世話物、夕霧阿波鳴渡  
「吉田屋の段」ですね。

☆ 叩かれて晝の蚊を吐く木魚哉 漱石

漱石の有名な句ですね。  
全部ご解説下さいね。

---

会長 > ☆ 蚊は名乗り蚤はぬす人のゆかり 其角

蚤は「ブーン」という羽音を立てない。  
羽が退化してしまったから

☆ **蚊柱に行あたりけり鼻の先** 菟好

蚊柱を家屋の柱になぞらえていますね。  
真っ暗な部屋で柱に鼻先がぶつかる・・・  
その柱が蚊柱だと・・・

☆ **足二本蚊にわたしたる旅寝哉** 孤鶴

旅寝で蚊に食われ放題。「わたしたる」  
はあきらめの境地ですね。

☆ **尻へたの蚊を打つ芋の葉風哉** 巢兆

芋というのは俳句では里芋のこと。芋の  
葉が風に吹かれて尻つぺたの蚊を打ち  
払ってくれる。

☆ **晝の蚊を後ろにかくす佛かな** 一茶

仏間や寺の風景でしょう 仏像の後ろの  
暗闇に蚊が隠れますがそれを仏さま っ  
まり仏像が隠したとしたものです。

☆ **晝の蚊やだまりこくつて後ろから** 一茶

この場合の蚊はブーンという音を出さな  
い。蚊に食われての悔しさもある句です  
ね。

☆ **釣鐘の中よりわんと出る蚊哉** 一茶

「わんと」は鐘をついたときの音でもあ  
りますから 掛け言葉の句ですね

☆ **ものいへば隣の蚊遣隣の蚊** 大江丸

芭蕉の句に 「ものいへばくちびる寒し  
秋の風」という有名な句がありますが、  
パロディーと考えてよろしてでしょう。  
隣の蚊遣から蚊が逃れてわが家にやって  
きた。これは隣の蚊だから余計に忌々し  
い。

☆ **吉田屋の蚊に喰れたり伊左衛門** 大江丸

近松の『夕霧阿波鳴門（ゆうぎりあわのなると）』の一場面を元に脚色した歌舞伎の「廓文章」で、通称『吉田屋』と呼ばれているものですね。

遊蕩の結果、親から勘当を受けた伊左衛門（は、みすぼらしい「紙衣」姿で、久しぶりに恋人夕霧のいる吉田屋を訪ねる。

夕霧は他の客の相手をした後、やっと伊左衛門のもとにやってくるが、伊左衛門は嫉妬して夕霧を罵る。やがて勘当が赦されたという知らせとともに千両箱が届き、伊左衛門は夕霧を身請けする。というハナシ。

夕霧がほかの客を相手にしている間、伊左衛門は おそらく蚊に食われたに違いないという想定 of 句。

☆ 叩かれて晝の蚊を吐く木魚哉 漱石

漱石は滑稽句をたくさん詠んでいて正岡子規も滑稽は漱石が一番だとほめているぐらいです。木魚を擬人化しています。叩くたびに中に隠れている句が堪えきれなくなって飛び出す。その滑稽と和尚さんが平然と読経をつづける風景が見えて可笑しい。

---

高橋 > 沢山の句を面白くご解説有難うございます。でも、またまた沢山の句が並んでますよ。昔は蚊と同様「蚤」もとても身近な生き物ですものね。御説明下さいね。

☆ 隙明や蚤の出て行く耳の穴 丈草

☆ 蚤逃げて念佛の数まざれけり 成美

☆ 蚤やいて日和うらなふ山家哉 一茶

☆ 猿芝居猿の蚤とる楽屋哉 子規

☆ 臍のあたり蚤を押えて寝覚けり 洗耳

☆ 蚤多しとて惟然庵を棄てゝ去る 瀾水

☆ うき人にひねりし蚤を飛ばしけり 紅緑

---

---

会長 > ☆隙明や蚤の出て行く耳の穴 丈草

隙明は仕事がなく退屈なことを言うんです。耳の穴にいた蚤も呆れかえって出てゆくという 可笑しくも哀しい一句ですね。

☆ 蚤逃げて念佛の数まぎれけり 成美

念仏は唱える数を数えるんですね。なんまいだあなんまいだ と  
ところが途中で蚤に食われて痒い。捕まえようとして逃げられなんまいだあ  
いっぴきだ・・・  
あれあれ念仏の数 いくつだったかな

という風景

☆ 蚤やいて日和うらなふ山家哉 一茶

山家哉は 山村での暮らしということ

日常の最大の関心事は明日の空模様です。下着を脱いで蚤を獲りながら 明日の天気はどうかと占うわけです。蚤は暖かいと活動が活発になりますから暑いぐらの縁側の風景ですね。

☆ 猿芝居猿の蚤とる楽屋哉 子規

「猿芝居」は人間の茶番劇をいうこともありますがこれはホンモノの猿芝居。楽屋で出番を待つ間に蚤をとってやる、そういうほのぼのとした風景ですね。

☆ 臍のあたり蚤を押えて寝覚けり 洗耳

眠っている間にも蚤を無意識に指の腹で押さえつけたのです。この蚤を潰さねば・・・そのために目覚めてしまった。

☆ 蚤多しとて惟然庵を棄てゝ去る 瀾水

江戸時代前記の俳人 惟然

☆ 水鳥や向うの岸にへつういつい  
の名句がありますね、蚤が多いという理

由で庵を捨てた。事実をニュースとして書いていますね。それほど昔は蚤が多かった

☆ **うき人にひねりし蚤を飛ばしけり** 紅緑

蚤は爪で潰して殺す、血を吸ったあとだと真っ赤になります。

潰した蚤を「憂き人」に飛ばした。嫌な奴に飛ばす。これは実際に飛ばしたのではなくそういうことをしてみたいという遊び心の句なんです。実際に飛ばしたとしたら洒落にならないのです。

---

高橋 > ふふふ！面白い解説 流石です。  
蚤にたかられたり、逃げられたり、実際に むずむず痒くなりそう！  
蚤は昔の話だと思ってましたら、会長も詩集「鯉の耳」で御読みですね。

★ **蚤の跳躍昆虫五輪の金メダル** 健

---

会長 > ☆ **美事なる蚤の跳躍わが家にあり** 西東三鬼。

蚤の跳躍は素晴らしい。  
跳躍は 記憶では・・・40センチから、ときには1メートルぐらい飛びましたから・・・

---

高橋 > それでは本日は、ここまでとさせて戴きます。

目の当たりにする様な面白いご解説本当に有難うございました。ご説明戴いていると、何か日頃大嫌いな害虫にも親しみが湧いて参りましたが・・・  
次回もごく身近な害虫「蠅」からということに・・・

では最後に滑稽俳句協会会長に恒例の「蚤と蚊の平成の滑稽句」をお願いして笑いのうちに終わらせて戴きたいと思います。

---

会長 > ■ 縄暖簾くぐるや蚤友達ふたり 健  
■ 鑿を撃つ石工や首の蚤を打つ 健  
■ かゆいとは蚊ゆいことなり掻き破る 健  
■ 蚊のやうに舞ひボクサーはモスキート 健

(2010年10月号)

---